延齢草の名に問へど古城の春は老い易く 流転の法は断た ち難し

再建の秋程なけん 友よエルムの鐘を聴け

ペルアスペラと鳴り響く

今移り来し原始林の蔭いまうつこ

契は深き三百の 宿るは未だ浅けれど

アドアストラの自治の鐘 暁 かけていざ撞かん 心を交はすこの宴

既倒にかへす 力あり

視よ落日 醒<sup>さ</sup>め 眠る此の城吾も亦 大地を旋り淪むかなだいちゃくして 妖雲西に漾 四大の荒び明日あれば ての生命培はん ロの悠々と

世紀の波濤は狂へどもせいきなみ 際涯もなく寄せ返すいやはて 光を担うて起たんとき 霧立ち騒ぐ曙の 厳寒凍る極北に

> 今人生の船出かた 理想の船は不壊にし 正気をはらむ若人のせいき 白帆高くはためきて つ大洋の な

さかまく苦海を永遠に航く T

村小弥太君 大槻均 君 作曲 作 歌

中